

第7回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議要旨

【日 時】 令和4年10月11日（火）午後1時30分～午後3時20分

【場 所】 稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】 稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	榊原 仁	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委 員	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	阿部一洋	稲沢商工会議所事務局長
	南谷一夫	平和町商工会事務局長
	木下正章	名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部地域連携部ツーリズム担当課長
	鈴木康仁	尾張大國霊神社権禰宜
	大野芳樹	公募市民
	吉田恵子	公募市民

【事務局】

足立和繁	稲沢市経済環境部長
内藤邦将	稲沢市経済環境部商工観光課長
加藤敦史	稲沢市経済環境部商工観光課主幹
梶浦英雄	稲沢市経済環境部商工観光課主査
酒井仁志	稲沢市観光協会観光コーディネーター兼事務局次長
櫻木 彰	稲沢市観光協会事務局次長
川村英二	稲沢市観光協会事務局主幹
石井好美	稲沢市観光協会事務局

【傍聴者】 なし

【会議次第】

1 委員長あいさつ

2 協議事項

(1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の中間見直しについて

(2) 今後の計画見直しに係る予定について

(3) その他

3 その他

【会議の概要】

1 委員長あいさつ

(委員長)

全国旅行支援が始まって11月1日のジブリパーク開園も間近に迫る中、来年は大河ドラマ「どうする家康」も始まり、愛知県も主な舞台となる。稲沢市がどう絡むかは難しいが、注目の年といえる。愛知県の観光施策では、インバウンドはジブリ、国内観光は大河ドラマを目玉に来年取り組んでどうか、ということで私が委員長を務めるあいち観光戦略推進会議は進行した。稲沢市としても、この盛り上がりに乗って観光施策を推進していけるような計画改定ができれば良いと思う。限られた時間の中で、各委員から積極的な意見をいただいて進めていければと思うので、よろしくをお願いしたい。

2 協議事項

- (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)の中間見直しについて
- (2) 今後の計画見直しに係る予定について

(事務局)

資料1「【仮称】稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)後期計画(案)」及び資料2「【仮称】稲沢市観光まちづくりビジョン後期計画策定スケジュール(案)」に基づき説明

(委員長)

【現行計画の概略について】

- ・計画の骨格としては、観光まちづくりをベースにしている。
- ・5年前の策定段階では、「稲沢で観光?」というところから始まったが、単に人が来れば良い・お金が落ちれば良いということではなく、まちづくりの一環として観光に取り組むという方針を明確化した。

- ・計画のステップとしては以下の3段階

- ①稲沢市の魅力(資源)を掘り起こし、磨く
- ②磨いた資源を商品化する(=受入れ体制を整える)
- ③商品化した資源を基に誘客する

- ・これまでのことから、計画の方針として以下のように整理した。

基本方針1:人材育成と組織体制の強化

基本方針2:受入体制の整備(魅力を活かしたツアーづくり)

基本方針3:誘客のための交通体制やPRへの取組み

やることはシンプルだが、問題は誰がやるか、どのようにやるか。

観光がなぜ難しいかというと、行政がプレーヤーになれない。他の分野では行政がプレーヤーになって行くことができるが、観光ではプレーヤーである観光事業者がやらなければそこまになってしまう。愛知県は産業観光を熱心にやっているが、企業が協力しなければ広がっていかないという面があり、資源を持っている側が「やらない」と言えばそこで終わりになる。

そうした中で稲沢市の目玉として作ったのが「いなざわ観光まちづくりラボ」であり、観光をやりたい人・取り組みたい人を集めて活躍できる場を作るためにラボを立ち上げた。プレーヤーを集めて市の観光の主役になってもらう、そのための場づくりを行政・観光協会が担うということがラボを作った目的。各委員からは、5年が経過してラボの活動が上手く進んでいるかについての意見もいただきたいと思う。計画上の想定としては、素材の発掘～磨き上げの部分をラボが担うことで考えているが、そこから先の商品化～誘客は観光協会に頑張ってほしい。

観光協会で素材の発掘から行おうとすると手間がかかるので、発掘は市民の方にやってもらい、ラボの運営も協会で行っているので連携しながら進めていくという構想だが、現在皆さんの中での感触はどうか。

(委員①)

協会として事業に取り組む中で、大きな誘客増は実感として得にくいですが、稲沢の資源を活用したバスツアーを開催し、ある程度の興味を持った客層に稲沢に来てもらったと考えている。ここ数年来、愛知県とも協力して武将観光に力を入れており、信長生誕の地・勝幡城や、ゆかりの地を巡るバスツアーを開催して誘客を図ってきたという実績がある。

(委員長)

誘客やPRの方法は、各自治体によって違ってくると思う。稲沢市は、誰に来てほしくてどこに向けてPRしているのか？ イチョウについては特にツアー化してPRしなくても客は来ると思うが、観光協会には、稲沢市に合った誘客の仕方を身に付けて実践してほしいということが元々の意図。稲沢市にとって次の5年間でやらなければいけないのはどの部分と思われるか。

(委員②)

素材の掘り起こしについては、結構進んできたと思っている。しかし商品化の部分でどうか、というのが課題。以前に話をしていたのは、稲沢市には民泊がない、泊まる場所が少ないために、一宮市や名古屋市に宿泊客が流れてしまうという面がある。つまり受入体制の部分が弱いので、そこに取り組む必要があると思う。

(委員長)

受入体制の整備に関しては、例としてイチョウを見に来る人を対象に「祖父江ぎんなんパーク」が整備されることで、受入れ体制は向上したと言えると思う。いきなり宿泊増というのは難しいと思うので、どこに力を入れると良いかという部分が検討の工夫どころ。この事例に類するような部分は他にあるでしょうか。

(委員②)

ボウリング大会で全国から集まるときに参加者の人たちが宿泊をしてお金を落とす機会になると思うが、宿泊先がないために稲沢に滞在していないので、整備が進むと良いと考える。

(委員長)

市としては、経費をかけて宿泊施設を誘致する施策について検討してはどうか。大阪の泉佐野市は補助金を出し、税制面で優遇して宿泊施設を誘致したとのことで、ここには関西国際空港があるので、インバウンド需要を見込んだ宿泊施設の整備が進んだ様子。すぐに宿泊施設整備とはいかないまでも、市内の飲食店に経済効果が発生するような取組みを進めるという観点から計画に記載しても良いかと思う。「周遊化」あるいは「イベントと土産物の連携の強化」といったことが考えられる。

(委員③)

委員長が言われるように、稲沢の大きな魅力はイチョウ。そぶえイチョウ黄葉まつりの時期になるとテレビなどでの放送もあり、いろいろなエリアから写真を撮りに来る人もいて、そうした人たちのために施設が整備されると受入環境が整う。

宿泊施設は岐阜県側にあった宿も少し前に閉館したように、全体的に宿泊客自体が少ないと感じる。名古屋駅までは駅から電車で10分前後という立地なので、そちらに泊まった方が便利だと思う。

(委員④)

稲沢の観光を考えたときに思い浮かぶのは、はだかまつりの3日間、イチョウが色づく1か月というように期間が限定されてしまい、年間を通じて誘客できるものがないのが課題。施設整備後は、その施設を盛り上げて、年間を通じて賑わう仕組みを作ることが必要と考える。この1か月で3回ほど、豊田合成記念体育館【エントリオ】に行ったが、その時に話に挙がるのがJRの操車場跡地、エントリオ。線路沿いにある稲沢東公園のスペースを使って、例えば毎月第〇週目の△曜日には地元産野菜を持ち寄ったマルシェが開催されるようになると、鉄道・スポーツ・農産物の3つが絡み合った賑わいが生み出されるのではないかと思う。

(委員長)

現行計画の基本方針3が「観光を活用した地域経済が潤う仕組みの構築」ということで、着実な誘客と地域経済への波及を狙っているが、各委員の意見を汲んで少し書き方を変えてはどうか。アクションプラン2「食の魅力づくり・お土産品の開発」のところを地域内の産業・農業との連携のように、基本方針3の内容を更なる連携の推進という観点から“イベントと飲食”、“立ち寄りスポットと農産物”のような連携推進と改めるのも良いと考える。

(事務局)

これまでのところ、5年前に策定した現行計画を若干修正するというように考えていたが、もう少し踏み込んで改定するという観点で検討したい。

(委員長)

計画を少しずつ直していくと、何が基本方針かというところがブレる可能性が出てくる。基本

方針1・アクションプラン4で元々がおもてなしについての記載だったのは、人材育成の一環としておもてなし意識を醸成し、稲沢市におもてなしのできる人材を増やしていくということ。これが観光受入体制の整備となると、基本方針2に関わる部分になるので、そこでイベント・ツアーや地域資源に対するアプローチについて記載し、基本方針3で経済効果を出すような施策を行うという3本の柱に組み替えることを検討してはどうか。

(委員④)

国府宮神社に関して、あれだけの距離がある参道は、なかなかない。このスペースで、毎月固定の日にちに〇〇市いちのようなものが開催できると良いというのは何年も前から話されてきた。

(委員⑤)

この件については、話がいただければ前向きに検討したい。冬のイルミネーションも近年盛んになっており、始まった頃は参道の途中までだったのが伸びてきて今年は境内でもイベントが展開されることになり、さらに盛り上がるのではないかと感じている。

(委員長)

計画を作るときに寺社の方や商工会の方に委員としてきていただいているのは、こういった場でもっと意見の交換や事業を進めてほしいというメッセージを込めている。今は、ラボが中心になって動いているところだが、この会議に出席している各組織の委員が連携して協議・検討し、何か1つでも事業が実施されると良いと思う。イルミネーションは、元々青年会議所が取り組んだところから始まっているが、せっかく国府宮神社という大きな集客施設があるので、いろいろな組織が協力して様々なことをやってほしい。もう少し市役所の方で誘導しても良いのでは。

(事務局)

本日の資料の中にイルミネーションのチラシがある。実行委員会は稲沢市、稲沢商工会議所、短大、大学、観光協会、社会福祉協議会、豊田合成で構成され、国府宮神社には特別協賛していただくという体制での実施。この体制でいろいろなことを協議しているのに加え、短大・大学との連携は、学生部会を組織して声を取り入れながら事業を進めている。今年は、スカイランタンを開催するが、これは学生のアイデアから始まっており、また、会場は、境内を使用するという事で国府宮神社にも協力いただいている。

(委員長)

イルミネーションは、すごく良い取り組みだと感じていて、実施する場所の広がりに加えて、参加者の輪も広がっているところが良い。初めは青年会議所が核になっているところからどんどんいろいろな方が混じってきた。こういうイベントが増えてほしい。観光協会の大きな仕事というイベントの実施であり、大きな比重を占めていると思うが、市内部の人たちを結び付ける場として、また、参加・交流する場として運営してほしいと思う。国府宮神社ともっと連携するにはどうしたら良いと思われるか？

(委員①)

神社では、間口を広げていただいていると感じるので、観光協会からも積極的に働き掛けていくことが必要かと思う。

(委員③)

先日、岡崎市で「岡崎市版るるぶ」をもらったが、稲沢市ではどうか。

(委員①)

3年ほど前に作成していて、来年度に作り直す予定。

(委員長)

観光パンフレットとしての「るるぶ」は良い媒体だが、作る際には委託業者が外部からの目線で素材を抽出して作るよりも、市民の方からの情報を吸い上げて作るということを検討しても良いと思う。

(委員①)

記事を作る際は、市民の方にも参画していただき、いろいろな意見を取り入れながら作りたいと考えている。最終的には委託業者の編集という面はあるが、できるだけ市民の意見を反映できるように進めていければと思う。

(委員長)

意見を取り入れるにとどまらず、市民の方の本当に載せたいものが載っているという状況が望ましい。市民の思い入れがあればあるほど、関わった市民が他の人に配って稲沢市のことを紹介してくれる。

(委員①)

「るるぶ」については、観光協会が出展するさまざまなイベント会場で配布していても、他のパンフレットと比較して、お客さんが手に取る割合が高い。「るるぶ」のブランド力を感じている。

(事務局)

パンフレットについては、業者委託による作成のため、あまり気持ちが込められていないと感じることもある。昨年度「稲沢のカフェ」という冊子を作ったが、次につくる機会があれば、観光協会が記事内容にもっと関わって、業者には作業に限定して関わってもらいたいと思っている。

(委員長)

こういった観光パンフレットを見る時は、表紙に市民の顔が載っているかということに注目し

ている。「私が推薦します・紹介します」というような記事があると良いと思う。次回の作成では意識して取り組んでいただけることを期待する。

(事務局)

計画では、ラボの人たちが地域資源を発掘するということが書かれているが、自分の感覚ではそこまでは至っていないと感じている。ラボの人たちを誘導しないと、資源から商品化して誘客に繋げるところまではなかなか進まないと思う。ラボの現状は、個人の集合体なので、人それぞれの考え方や背景がある。それぞれがやりたいことをやる状態であり、商品化できるものがあれば商品化していくという状況。商品化して利潤を得る人が少なく、プレーヤーといいながらも第三者的立場の人であることが多い。もう少し直接の事業者が混じらないと商品化に至るのは難しい。メンバーに事業者を取り込むことを事務局の方で進めていかないと、「素材の発掘→商品化→誘客」という構想のとおりにはいかないのではないかな。

(委員長)

ラボは、その名のとおり実験的組織なので、誘導していかなければ理想的な動きにならないかもしれない。少し働き掛けをしてもいいと思う。一番やってほしいのは、ラボとしての成果を出すこと。成果が見えることでメンバーの達成感ややる気にも繋がるのではないかな。ラボは拡散していくものなので、今後の方向性については協会の方で考えると良いと思う。

(事務局)

信長のふるさと・勝幡城と美濃路が大きな柱になっているが、勝幡城については駐車場もなく、資料展示もされていないので、消費行動に結びつけにくい。本当に歴史を好きな人は別として、一般の人を呼び込むのは難しいと思う。武将観光を進めるには、もう少しハード面も含めて何とかしないと、取組みが枝葉の部分での展開になってしまう。美濃路においても、本陣跡ひろばの建物はあまり活用されておらず、観光はまち歩きのみという状態なので、外部の人の誘客に結び付けることができていない。ソフト面も大事だが、誘客を進めるためにはハード面も重要と感じるので、検討を進めていただきたい。

(事務局)

なかなかハコモノ整備とは言いにくい状況なので、検討を進めて機が熟せば整備するということになるかと思う。継続的に協議するというような表現で記載できれば。

(委員長)

以前に城郭考古学者の千田先生が話していたが、「信長の城を見ると日本の城が分かる」と言っていて、勝幡城をきちんと整備していないのは許されないというような意見だった。城郭研究の第一人者もこのような意見だということで、検討を進めていただけたらと思うが、この整備が進むととても大きな観光資源になるのではないかな。美濃路と勝幡城に関しては、周辺観光整備も含めて継続的に関係者と協議をし、検討するという形ではどうか。

(事務局)

誘客に繋げることが観光協会の課題であると考え、誘客できるような地域資源の発掘をし、それを外部の人が来たいと思うような体制にしないといけない。ゼロから新たなものを作ると費用もかかって大変だが、既存の空き家や施設を工夫して活用するようなことはできるのではないかと思う。

(委員長)

そこが難しい部分で、従来だと行政が観光施設を作るといような、まずハードありきで進める場合が非常に多くて、作った方がいいがガイドする人がいなかったり、市民が「何か施設ができた」という感想を持つだけのこともある。地域人材の掘り起こしや思い入れの掘り起こしが大事で、これと同時にハードをやらないといけないという反省がある。いきなりハード整備からは行わないという市のスタンスも否定できない。「私たちが資源を大事にしたいから整備してほしい」という声が市民から上がって整備するような状態になるのが望ましいので、引き続き協議をしてその気運を盛り上げていく必要があると思う。

(委員⑤)

17 ページにある「国府宮はだか祭を体験できる通年プログラムの検討」については、どういったイメージか。

(事務局)

国府宮はだか祭は、当日棧敷席以外から見物しようと思うと、背が高い人でないと見えない。この状態で、お客さんを呼んでまつり見物といってもなかなか楽しむことができない。はだか男になってまつりを体験するのは良いと思うが、1年のうちの1日しかできず、まつりを見る側ではなかなか難しい面がある。まつり当日以外にも魅力を伝えられるようにしたいというのが基本的な考え。はだか祭の謂れを知るとか、当日の様子を映像に収めたものを見ることで魅力を知ってほしいと考える。

(委員①)

対象としては、はだか祭に関心がある一般観光客を想定している。まつり当日に何が行われているかというのは、ニュースで取り上げられた映像を見ることくらいでしか知られていないので、例えば案内をしてもらいながらまつりに関係があるエリアを見学することも需要としてはあるのではないか。

(事務局)

市民で国府宮神社に参拝したことがない人は少ないが、神社儼追殿などの内部に立ち入って参拝した経験がある人は多くないと感じている。市民へ国府宮の魅力を深掘りして伝えたいということと、市外の人に稲沢を紹介するときの象徴として国府宮を活用することが多く、こうした人

たちがまつり当日に来たいと思って十分に見ることはなかなか難しいので、当日以外にももう少し興味・関心を持てるような仕組みを作りたいと考えている。

(委員③)

国府宮神社では「なおい茶会」という催しで儼追殿の中に入る機会を得られるが、あまり広く周知されていないように感じるので、もっとPRすると良いのではないか。

(委員長)

この話は、神社側がやらないと言えられない。この計画は、市や観光協会の方針を示しており、今後の実施について検討していただきたいという計画内容だとご理解いただければ。

(委員⑤)

神社としても市や観光協会と協力しながら進めていきたい。ハードがあれば、そこでVR体験を提供ということも考えられるが、現在はそういった場所がないので、難しいとは思う。それぞれで協力しながらできたらと思う。

(委員長)

神社側としては市や観光協会を利用したり、協力したりしながら進めたい内容が実現するように協議してもらえたらと思う。

(委員⑥)

先ほど美濃路や信長生誕地の施設整備の話があった。「観光受入施設の整備も検討」となっているので、その点も充実させるため取り組むのかと思って計画を見たが、主な取り組みには入っていない。このことも検討するという姿勢を入れておく方が分かりやすいのではないか。宿泊施設に関する記載の部分でも、内容は「多言語表記の啓発」となっていて、書き方をもう少し整理した方が良いと感じる。

3章のアクションプランの前にまちづくりラボの記載があって、アクションプランでは人材育成と体制整備により受入体制を整えていくとなっている。ラボを前面に出すことは良いとは思いますが、人材育成と体制整備について、ラボをどのように活用しているのかを分かるように記載すると、ラボが市民参加のきっかけ作りになっている部分が伝わるのではないか。

データ活用については、愛知県観光協会がデジタルデータの収集を進めているが、そのデータをどのように使うかという点はあまり進んでいない。現在、県内の10地域で観光デジタルデータを使って誘客や観光資源の盛り上げをどのように行うかの実証実験中。使用できるデータとして、出発地と到着地、周遊に関するデータ、属性について実際のデータと予測に基づくデータがある。稲沢市が観光データをどのように活用するかを参考にお聞きしたい。

稲沢市の中だけで完結するような観光は、失敗すると思っている。周遊という要素が必ず必要。しかし、宿泊施設を誘致しようと思うと莫大なお金がかかる。愛知県も予算を使って名古屋市内にいくつか誘致しているが、稲沢市はどういう形でお金を落としてもらおうかを考えないといけな

い。イルミネーションやイチョウ黄葉で人は来るが、より集めるために、例えば、月に一度市を開くとか、分かりやすいものでは、道の駅を設置してお金を落としてもらおうといった取組みが良いのではないかな。

(事務局)

データ活用については、検討中。イチョウ黄葉まつりやあじさいまつり等のイベント会場でアンケートを実施しているが、取れるデータは限られている。まつり全体の集客人数、どこから来ているか、いくらの消費額があるか、どこに立ち寄って会場に来たか、どういった経路で帰っていくかということが分かれば、何らかの形で活かせるのではないかなという思いがある。イチョウ黄葉まつりでは、開催期間中に多くの方が集落に入り込んで交通渋滞を起こしているが、運営側としては名鉄を利用して訪れてほしい、というときに何か活かさないかなということも考えている。

(委員⑦)

これまで観光まちづくりラボを中心に5年間取り組んでおり、ここをしっかりと拡充することが必要と思う。アクションプランが進められていくうちに、重要な取組みが見えてきていると思うので、それを計画に反映するのが良いのではないかな。商品化や発信に繋げていくために、より拡大していくアクションプランがあっても良いと思う。交通事業者として支援できる部分も着地型のウォーキング等であると思うし、アプリに地図を取り込んでコースを常設化することで観光客数の平準化を図る取組みもしていければ。

(委員長)

計画策定から5年経過して、取組みの優先順位を入れ替えることも検討すると良いのではないかな。どの部分を次の5年間で重点的に取り組むかを考え、過去の経緯にとらわれず、検討し直せば良いと思う。市が計画を作る意味は市民へのメッセージと考えているので、稲沢市がどういう観光に取り組むかを市民に伝えられるようにしてもらえたらと思う。

(委員②)

「イベント・コンベンションの誘致」(基本方針3のアクションプラン7)で、計画区分が「短期」と書いてあるが、どういう考えか? さらに、「夏季アジア大会」と書いてあるが、夏季(冬季)のような区別があったかの確認が必要ではないかな。

(委員長)

全日本小学生ボウリング競技大会のように既に開催実績のある大会もあるので、稲沢市を訪れた参加者にどのように具体的に経済効果を発生させるかを記載しても良いのではないかな。

(委員⑧)

パブリックコメントを実施するときに、市民が計画を読んで、これから稲沢市の観光で何をするのか・どの部分に力を入れるかが伝わるような計画にしてほしい。例えば、観光まちづくりラ

ボについては、全体約 40 ページのうち 2 ページに留まっているのを、より具体的に記載しても良いのではないか。8 ページの「市内に向けて」「市外に向けて」は、何をやるか伝わってこないので、第 2 章：重点アクションプランに関する記載をもう少し厚くしても良いと思う。前半 5 年で取り組んで誘客・商品化にたどり着いていない部分があれば、何をやるかを記載すべきではないか。

(委員長)

ラボをどういう思いで作って 5 年が経過し、現在どういった状況にあるか。市内の魅力を発信するのは市民であり、その魅力を活かすためにラボをより活発化させるというようなことを記載するのは良いと思う。ラボを通してどういう思いで何をやっているのかが伝わるような書き方をしてはどうか。

今回はパブリックコメントの実施前になると思うので、会議開催前に計画案を示してもらい、各委員が、今回の委員会での意見の反映状況等を確認したうえで発言できるように進めてほしい。市の想定よりは改定を加えることになると思うが、この後 5 年間しっかり取り組める内容で計画を作してほしい。